

令和2年度北海道科学技術賞受賞者功績概要

氏名	清水 宏（65歳）
所属・職名	北海道大学・名誉教授
<p><功績名> 「難治性先天性皮膚疾患に対する病態解明および新規治療法の開発」</p> <p><功績の内容> 表皮水疱症（epidermolysis bullosa、以下EB）という、先天的に皮膚基底膜分子が欠損する難治性疾患に対する病態解明・治療法開発の研究に大きな成果をあげている。 氏は、皮膚基底膜分子に対する形態学的アプローチに1980年代から取り組み、皮膚における免疫電顕を精力的に行ってきた。これによって、皮膚基底膜構成蛋白の超微細構造が明らかとなり、これらの蛋白が欠損して生じるEBの病態解明につながりました。EBのモデル動物を作成するとともに、トランスジェニックレスキューという手法を用いることで、遺伝子導入がEBの治療となりうることを示した。新たな治療法の開発に精力的に取り組み、復帰変異モザイクという現象を利用して難治性のEB患者に培養表皮シートを用いた創傷治療の実用化に貢献した。 また、EBの日本における患者組織である「表皮水疱症友の会（DeBRA Japan）」（同会の設立当初のメンバーは氏の患者）のアドバイザーを設立当初から続け、患者会のサポートに取り組んでいる。</p>	

注) 年齢は令和2年（2020年）4月1日現在